

【試験液の作り方とテスト方法】

残留ハロゲン化銀の試験液の作り方

コダック 残留銀試験液 ST-1
貯蔵液 1000ml 用

● 材 料

- | | |
|------------------------------|-------|
| ① 水（蒸留水または精製水） ^{*1} | 100ml |
| ② 硫化ナトリウム（無水） | 2g |
| （硫化ナトリウム五水和物の場合） | 4.3g） |
| （硫化ナトリウム九水和物の場合） | 6.2g） |



^{*1} 水に含まれる不純成分の影響を避けるため、蒸留水または精製水を使用する。

- 作り方 材料を合わせて溶解する。
使用の際には貯蔵液と水（蒸留水または精製水）を 1 : 9 の割合で希釈する。
- 保 存 貯蔵液は密栓しておく約 3 か月保存できるが、
希釈後は寿命が短く 1 週間で取り換える。

残留ハイポの試験液の作り方

コダック ハイポ試験液 HT-2
ハイポ試験用酸性硝酸銀液 1000ml 用

● 材 料

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ① 水（蒸留水または精製水） ^{*1} | 750ml |
| ② 酢酸 28% ^{*2} | 125ml |
| （氷酢酸の場合 | 35ml） |
| ③ 硝酸銀 ^{*3} | 7.5g |
| ④ 水（蒸留水または精製水） ^{*1} | 125～215ml 位 |



^{*1} 水に含まれる不純成分の影響を避けるため、蒸留水または精製水を使用する。

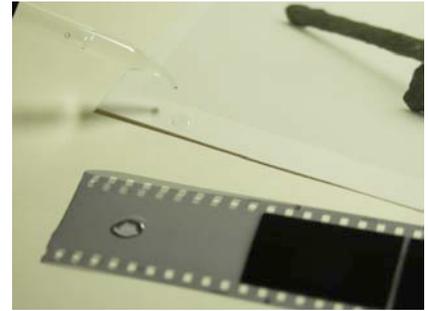
^{*2}、^{*3} 酢酸と硝酸銀は皮膚を刺激するので、注意して取り扱う。

もし皮膚に触れたら直ちに流水で洗い落とし、医師の診察を受けること。

- 作り方 ①～③を合わせて溶解し、更に④を加えてできあがり量を 1,000ml にする。
- 保 存 ねじぶたかガラス栓の褐色ビンに貯蔵し、強い光を避けて保存する。
適切に保存すると約 2 年間有効。
- 取り扱い上の注意 手・衣服・ネガ・プリント等に着くと黒色汚染を生ずる。

テスト方法

- 1、どちらの試験液も、
 - ・ 印画紙なら、縁の**白い不要な部分**
 - ・ フィルムなら、**名称やコマ番号が裏返し**に見える状態にして**画像が無く透明の、不要な部分**に、試験液を1滴落として2～3分おく。
(いずれも濡れている場合は水分を拭き取ってから)



- 2、落とした試験液を脱脂綿や吸取紙などで除去し、残った着色（しみ）の程度を見る。

判定のめやす

着色なし

＝判定 A（保存性にかかわる問題点はないもよう）

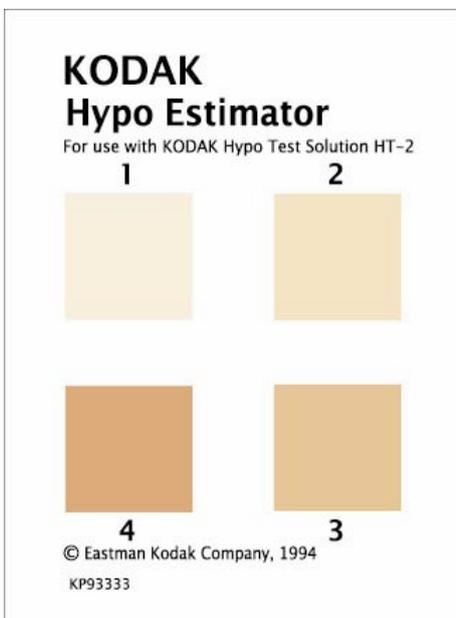
ごく淡い黄色

＝判定 B（さしあたり問題は無いが長期的には変退色の可能性あり）

クラフト紙の事務用封筒程度～それ以上の濃い着色

＝判定 C～D（早めに～直ちに再処理が必要）

残留ハイポのテスト結果をより正確に判断するには、ハイポエスティメーターと比較することが必要となります。かつてはコダックから市販されていましたが、残念ながら現在は入手できません。参考として下に掲載します。



コダック ハイポ エスティメーター

実際の製品は、透明フィルムに印刷されたもの。

上記の試験では、エスティメーターと試料のフィルム・印画紙を白紙の上に置いて比較する（光に透かして見ない）。

上記判定のA＝エスティメーターの 1以下
B＝ 1～2
C＝ 2～3
D＝ 3～4 に相当